

アオサギガイ *Psammacoma gubernaculum* (Hanley)

【選定理由】

本種は内湾の潮下帯の砂泥底に生息する。県内では内湾域の潮下帯の環境は上部の干潟の破壊や浚渫、貧酸素水塊の発生、水質汚濁などで急速に悪化していて、この生息帯の貝類相が著しく単純化している。本種も明らかに生息場所、個体数とも激減している。本種は知多湾南部で底引き網によりわずかな死殻が採集された(中山, 1980)が、その後長らく死殻の採集記録もなかった。2008, 2009年に名古屋港沖の砂泥底より殻皮の残された合弁の死殻(図示標本)が少数採集された(木村, 2010)。その後の調査では死殻も得られていない。和田ら(1996)では危険とランクされている。引き続き絶滅の可能性が非常に高い種であると評価された。



名古屋市名古屋港沖(ドレッジ水深6 m), 2008年10月9日, 木村昭一採集

【形態】

殻長約 45 mm で、殻は長い卵形で膨らみは弱く扁平。殻はやや薄く、白色で殻頂部はやや青みを帯びる。後背縁は短く直線的。

【分布の概要】

【県内の分布】

生息場所、個体数が減少し、知多湾南部、名古屋港沖より死殻の採集記録があるが、近年では死殻さえ採集されていない。

【世界及び国内の分布】

日本、東南アジア。国内では房総半島から九州まで分布する。

【生息地の環境／生態的特性】

【選定理由】の項参照。

【現在の生息状況／減少の要因】

上述したような潮下帯の環境は破壊されているので、本種の生息場所、個体数とも激減したと考えられる。近年死殻さえ採集されず、危機的生息状況である。絶滅した可能性もある。

【保全上の留意点】

内湾の潮下帯の環境を保全する。干潟の保全や、内湾域の水質の富栄養化を防止することが不可欠である。

【特記事項】

生息水深帯がやや深く、モニタリングが困難な事もあり、国のレッドデータブックには掲載されていないが、今後絶滅危惧種とすることも考慮するのが望ましい。

レッドデータブックなごや 2010 (木村, 2010) では、本種と正しく同定された名古屋港沖産の合弁死殻標本(図 3) が図示されていたが、レッドデータブックなごや 2015 (木村 加筆 川瀬, 2015) では産地不詳の本種(と思われる)が図示された。その地で採集された貝類の画像はレッドデータブックの重要な資料(データ)の一つなので、他産地の標本はなるべく使用しないことが望ましい。ましてや、産地不詳の標本は同定面での不確定要素もあるので掲載するべきではない。

【引用文献】

- 木村昭一, 2010. アオサギガイ, p. 197. in: レッドデータブックなごや 2010 (2004年版補遺), 316pp. 名古屋市環境局.  
木村昭一 加筆 川瀬基弘, 2015. アオサギガイ, p. 410. in: レッドデータブックなごや 2015 動物編, 503pp. 名古屋市環境局.  
中山 清, 1980. 知多湾南部海域の貝類相. かきつばた, (6): 10-12. 名古屋貝類談話会.  
和田恵次・西平守孝・風呂田利夫・野島哲・山西良平・西川輝昭・五島聖治・鈴木孝男・加藤真・島村賢正・福田宏, 1996. 日本の干潟海岸とそこに生息する底生動物の現状. WWF Japan Science Report 3, 182 pp.

(木村昭一)